

愛知学院大学歯学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会

平成 31 年度 第 1 回（持ち回り） 次第

平成 31 年 4 月 19 日

1. 審議事項

平成 30 年度第 1 回申請研究課題審査結果に基づく再申請

再申請研究課題審査

○研究課題名：ゲノム、エピゲノム解析による唾液腺悪性腫瘍の病態の
解明

研究責任者：長尾 徹（顎顔面外科学講座）

ヒト細胞・組織・遺伝子・疫学情報倫理委員会（任期 H31. 4. 1～R3. 3. 31）

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)
学内委員	河合 達志	歯科理工学講座 教授	内規第3条(1)愛知学院大学歯学部専任教員
	夏目 長門	口腔先天異常学研究室 特殊診療科教授	〃
	長谷川 義明	微生物学講座 教授	〃
	前川 眞見子	解剖学講座 准教授	〃
	○ 前田 初彦	口腔病理学講座 教授	〃
	◎ 松原 達昭	内科学講座 教授	〃
学外委員	池田 千晶	中日新聞編集局 生活部長	内規第3条(2)愛知学院大学歯学部以外の学識経験者 並びに一般人
	○ 市原 佐保子	自治医科大学医学部環境予防医学講座 教授	〃
	加藤 宏一	愛知学院大学薬学部 教授	〃
	孫田 信一	(有)胎児生命科学センター 取締役副社長	〃
	馬場 礼三	中部大学生命健康科学部 教授	〃
	日比 英晴	名古屋大学大学院医学系研究科 顎顔面外科学 教授	〃
	山本 正彦	愛知学院大学心身科学部 教授	〃
	横山 貴之	弁護士	〃
顧問	鈴木 慎太郎	愛知学院大学法学部 教授	

平成31年度第1回(持ち回り)愛知学院大学歯学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会
研究承認課題

1. 研究責任者：長尾 徹（顎顔面外科学講座）

研究課題：ゲノム、エピゲノム解析による唾液腺悪性腫瘍の病態の解明

概要：唾液腺悪性腫瘍は稀少癌とされ、臨床研究の進捗は未だ不十分であり、標準治療の確立に至っていない。現在、唾液腺腫瘍の基本的治療は手術療法であるが、近年、EGFR、HER2、ホルモン受容体などを対象とした分子標的療法も注目されている。しかし、唾液腺腫瘍は病理組織学的に類似したものも多く、さらに腫瘍の種類は50を超え、適切な診断や腫瘍悪性度の評価に難渋する。分子標的薬やホルモン治療を適用するためには、正確な診断を行い、予後予測因子、治療効果予測因子等も明らかにし、治療法の選択を明確にする客観的な指標が必要である。

本研究の目的は、唾液腺腫瘍(唾液腺発生したリンパ腫も含む)と診断された臨床症例の切除標本、細胞診材料、血清を用いて、ゲノム/エピゲノム解析により病態を明確にし、新たな診断法や予後および治療効果予測因子を確立することにある。